

がん予防 理解深めて

がんについて考えるイベント「あきたがんなささえ愛の日」が15日、秋田市の秋田拠点センター・アルヴェで開かれた。食生活やたばこをテーマにした講演などを通じて、参加した市民ら約200人が予防に関する理解を深めた。



15日秋田フォーラムの引き上げを

がんの予防には食生活や禁煙が重要と訴えた鈴木院長

アルヴェでイベント

医師が講演 喫煙の影響指摘



県内の医療関係者らでつくる実行委員会（委員長・堀井啓一副知事）の主催。同市のすずきクリニックの鈴木裕之院長（57）と外旭川病院の三浦進一院長（60）が講師を務めた。

鈴木院長は、がん発症の原因の約7割が食生活やたばこ

こ、酒であると指摘し「肉、油、塩を控えた野菜中心の食事や禁煙が予防につながる」とアドバイス。また、喫煙は心筋梗塞や脳卒中の原因にもなるとした上で「公共の場合は全面禁煙にするなどして、受動喫煙の対策もしなければならぬ」と訴えた。

三浦院長は「たばこ税の引き上げを」と題して講演。喫煙していた人が禁煙した理由として、「たばこの値上がり」が2割以上を占めることを説明し、「値上げが禁煙の後押しになり、健康維持につながる」と強調した。

会場には、秋田大医学部の学生が出題したクイズコーナーが設けられたほか、特殊な光で細かい血管を照らしがんの早期発見につながる「狭帯域光観察内視鏡システム」が展示された。

（加藤慶一郎）